



**2022**

**和歌山大学 留学生による**

**第14回 作文コンクール**

主催 和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

## 第14回作文コンクールに寄せて

審査委員長 長友 文子

国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センターは、第14回留学生による作文コンクールを行いました。作文コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。第14回目を迎えた今回は、ベトナム、中国、モンゴル、スリランカ、ミャンマー、ウズベキスタン、トルコ、ウクライナ、ブラジルの9か国からの留学生12名の応募がありました。審査の結果は次の通りです。

### ◎最優秀賞：

- ・日本語・日本文化研修留学生（中国）銭 琪佳さん「気軽に話し会おう！」

### ◎優秀賞：

- ・日本語・日本文化研修留学生（トルコ）ババダー セリムさん「和歌山で散歩」
- ・日本語・日本文化研修留学生（ミャンマー）メイテュ ミヨー アウンさん「和太に留学してよかったこと」

### ◎審査員賞：

- ・交換留学生（中国）金 安琪さん「『平家物語』との縁」
- ・日本語・日本文化研修留学生（ウクライナ）パーダルカ オリハさん「え？生魚食べられる？」
- ・日本語・日本文化研修留学生（スリランカ）タヌシ アベセカラさん「温かい和歌山」

### ◎努力賞：

- ・日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）グエン タム ティ ホンさん「自分の中に存在する和歌山」
- ・日本語・日本文化研修留学生（ブラジル）ゴンサルベス サントス ギレルメさん「千の間違った言葉」
- ・日本語・日本文化研修留学生（ウズベキスタン）エシュプラトフ フェルズさん「また来てね」
- ・経済学部3年（モンゴル）バトゥルジー オユンダリさん「2011年3月11日」
- ・交換留学生（ベトナム）レ ミン トゥーさん「愛に満ちた和歌山」
- ・交換留学生（ベトナム）チャン ティー スアン イーさん「和歌山大学-非常に貴重な贈り物」

最優秀賞に輝いた中国の銭さんの作文は、様々な国からの留学生が、日本語を学ぶという共通の目的をもって和歌山に来て、出会ったことの不思議で貴重な体験を、上手にまとめています。和歌山に来なければ、一生出会うことがなかった様々な国から来た友達、言葉も考え方もこれまでの経験も違う人たちが、和歌山で、日本語で、コミュニケーションをすることで、お互いが理解しあえるすばらしさを、的確な日本語で表現していました。何気ない日常の一場面ですが、読者を温かい気持ちにさせてくれる内容でした。

優秀賞には、トルコのセリムさんとミャンマーのメイテュさんが選ばれました。セリムさんの「和歌山で散歩」は、セリムさんがコロナでなかなか入国できず、やっと和歌山に来た気持ちが、生き生きと表現されています。やっと来られたセリムさんが、散歩で出会った和歌山の豊かな自然、目に映る何気ない昆虫や鳥、神社、お寺、お城、さらに、和歌山の人々の温かさ、などの描写を読んでゆくうちに、その情景が目に浮かんできます。自分の気持ちを的確な日本語で優しく語った心温まる作文でした。

また、メイテュさんの「和歌山に留学してよかったこと」は、留学して気づいた自文化をテーマに取り上げ、和歌山祭りに参加したことで、これまでの自国の祭りに対する気持ちが変化したことを、上手に描写していました。祭りに参加する準備として大学で学んだ際に浮かんだ、1年に1回しかないお祭りを深く研究する必要があるのかという疑問が、実際にお祭りに参加することで消えて、地域社会にとってお祭りがいかに大切かに気付いたことや、これまで関心がなかった自国の伝統文化の受け止め方が変わったことなど、心の変化が素直に書かれた、学生らしい作文でした。

審査員賞を受賞された中国の金さんの作文は、平家物語がテーマです。金さんは、自国でアニメの平家物語に出会い、さらに和歌山大学に来てから、二つの授業での体験的な学んだことで、物語に流れる無常観を深く読み込みました。その上で、作文は、諸行無常の世界であっても、この世界に現れた生命にはかけがえのない価値があるという金さんの気持ちが、工夫した表現を通して読み取れる、内容の深いものとなりました。また、ウクライナのオリハさんの作文は、和歌山に来てから出会った人々や日々の生活の中で、異文化で生活することが自分の価値観に影響を与え、パーソナリティの成長につながるという実感をえたこと、そして、これまでの人生で出会った人々に感謝しつつ、人との出会いや人との“縁”を大切にしたいと思っていることを、丁寧にまとめた作文を書いてくれました。そして、スリランカのタヌシさんは、家の近くの小道で出会った犬を連れた女性が、初めてだったのに優しい言葉で長時間話してくれたことや、家族に電話できずに寂しい気持ちで歩いているとき、「こんにちは」と声をかけながら自転車で追い抜いていった可愛い小学生の一言に、寂しさが消えたことなど、日常の中で出会った和歌山の人々の温かさへの感動を作文にしてくれました。

あと、ひとつひとつ取り上げることはできませんが、努力賞のみなさんの作文も、全てが、それぞれ素晴らしい作文でした。自分が体験したこと、学んだことなどが、上手にまとめられ、表現されていました。今回のみなさん作文はどれも、楽しく読める、また考えさせら

れるものでした。

みなさんの作文は、日本学教育研究センターのHPに掲載されます。和歌山大学への留学を考えている人、和歌山や和歌山大学に興味を持っている人が、海外からアクセスして、みなさんの作文を読んでもらえるでしょう。

今回も審査員を務めてくださった永野先生、中野先生、嶋本先生、藤山先生、コンクールの世話をいただいた松下先生、そしてセンター職員の方々にお礼を申し上げます。

そして、最後になりましたが、お忙しい中、毎年、表彰をしてくださる学長に、留学生とともに、心よりお礼申し上げます。

# 第14回 作文コンクール

## テーマ：留学生から見た和歌山

### ■最優秀賞

セン キカ

銭 琪佳 ..... 1  
日本語・日本文化研修留学生（中国）  
「気軽に話し会おう！」

### ■優秀賞

ババダー セリム

BABADAG SELIM ..... 4  
日本語・日本文化研修留学生（トルコ）  
「和歌山で散歩」

メイテュ ミョー アウン

MAY THU MYO AUNG ..... 7  
日本語・日本文化研修留学生（ミャンマー）  
「和太に留学してよかったこと」

### ■審査員賞

キン アンキ

金 安琪 ..... 10  
教育学部 交換留学生（中国）  
「『平家物語』との縁」

バーダルカ オリハ

PADALKA OLHA ..... 13  
日本語・日本文化研修留学生（ウクライナ）  
「え？生魚食へられる？」

タヌシ アベセカラ

THANUSHI ABEYSEKRA ..... 16  
日本語・日本文化研修留学生（スリランカ）  
「温かい和歌山」

### ■努力賞

グエン タム ティ ホン

NGUYEN THAM THI HONG ..... 19  
日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）  
「自分の中に存在する和歌山」

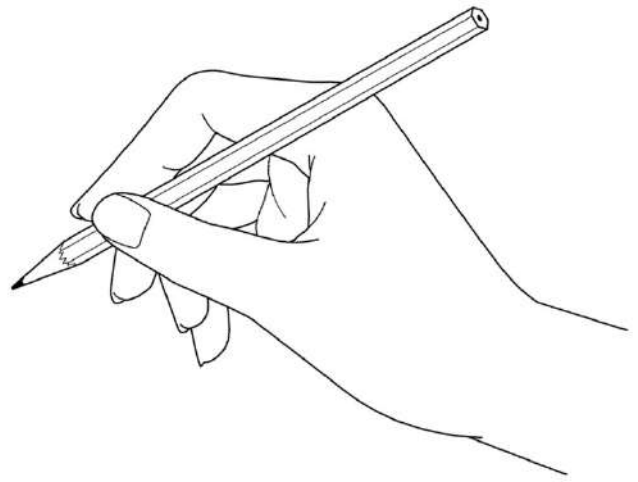
ゴンサルベス サントス ギレルメ

GONCALVES SANTOS GUILHERME ..... 22  
日本語・日本文化研修留学生（ブラジル）  
「千の間違った言葉」

エシュプラトフ フェルズ ESHPU LATOV FERUZ .....	25
日本語・日本文化研修留学生（ウズベキスタン） 「また来てね」	
バトウルジー オユンダリ BAT-ULZII OYUNDARI .....	28
経済学部3年（モンゴル） 「2011年3月11日」	
レ ミン トゥー LE MINH THU .....	31
教育学部 交換留学生（ベトナム） 「愛に満ちた和歌山」	
チャン ティー スアン イー TRAN THI XUAN Y .....	34
教育学部 交換留学生（ベトナム） 「和歌山大学－非常に貴重な贈り物」	

## ■ 審査員

国立大学法人和歌山大学 日本学教育研究センター長（審査委員長）	長友 文子
国立大学法人和歌山大学 名誉教授	永野 基綱
国立大学法人和歌山大学 日本学教育研究センター 准教授	藤山 一郎
国立大学法人和歌山大学 日本学教育研究センター 特任助教	松下 恵子
国立大学法人和歌山大学 日本語非常勤講師	中野 律
国立大学法人和歌山大学 日本語非常勤講師	嶋本 圭子



2022

和歌山大学 留学生による

第14回 作文コンクール

## 気楽に話し会おう！

銭 琪佳

日本語・日本文化研修留学生 中国

ある日のこと、同じ大学の留学生の友達にパーティーに誘ってもらい、皆で楽しい時間を過ごしていた。そんな中、面白いことがあった。滅多にかけてこない父から電話がかかってきたのだ。「賑やかだね、何をしているの？」と父が聞いたので、私は「友達の部屋で遊んでる。」と中国語で答えた。すると、友たちがすぐよってきてハイテンションで父に「ニーハオ」と挨拶をしてくれた。父は感心したようにこう言った。「いろんな国の人がいるんだね。日本語ではない、それぞれ違う言語を話している人たちが、日本語で通じ合えるって不思議なことだ」



全くその通りだ。今ではすっかり日常になったシーンだが、じっくり考えると実に不思議だ。当時その場にいたのは、確かに一生知り合う事のなかったはずの人たちである。こうして話し合えることもありえなかったはずだ。しかしその状況を変えたのは『日本語を勉強しに日本へ行こう！』と自ら行動したからに他ならない。

ふと、私は自分が英語を勉強した経験を思い出した。小学一年生から大学まで、すでに10年以上勉強してきた。日本語の勉強とは比べ物にならないくらい長い時間をかけたにもかかわらず、英語力は全く向上していない。話せるどころか、聞き取ることも難しい。努力が足りないのも原因の一つかもしれない。しかし最も問題だったのは、英語でコミュニケーションをしたいという目標ではなく、単に試験に合格することを目標に勉強してきたことだと思った。普段も全く使わず、授業でも特に話すチャンスがなかったため、勉強しても全く話せない自分に焦りを感じ、ますます自信を失っていった。



一方、和歌山での日本語の勉強はどうだろうか。来たばかりのときは大変緊張していて、話すたびに心臓が激しく鼓動していた。私の日本語力も取り立てて優れているわけではなく、頭の回転が悪くなったかと思うくらい、言いたい言葉が出てこないことがよくあった。しかし、先生方や学生さんたちとの交流には全く支障はない。どこかを間違えても優しく注意してもらえ、気長に最後まで聞いてもらえる。常に私の言葉を理解しようとしてくれる。だからこそ今は気軽に話せるようになったのだ。

今私はこう思う。もし「あなたはなぜ日本語を勉強し始めたのですか」と聞かれたら、おそらく「今のようなシーンに憧れているからだ」と答えるだろう。国籍、経歴、考え方が違う様々な人たちが、外国語の勉強を通して、距離を縮めていき、理解し合えるようになる。言語そのものも魅力的だが、言語は、私にとってコミュニケーションの媒体である。コミュニケーションの役割をきちんと果たしたとき、言語は輝くことになるのだろう。「外国語の勉強は話すこと抜きで上達するわけではない！」と私は確信している。

ことわざに「言うは易く行うは難し」という言葉があるが、私は、あえて「気楽に話す」という勉強方法を積極的に取り入れてみたい。そしてこれから先も語学の学びを楽しみたい。ありがたい事に、今のように多言語の環境に居られるチャンスは滅多にない。留学期間も半ばを超え、帰国する日も目前に迫ってきた。だからこそ、「今を楽しもう！」、もっとももっとここで出会う人たちと「気楽に話し会おう！」と思うのだ。

## Let's talk cheerfully

Qian Qijia

Japanese Studies Student / China

Recently, I was invited to a small party by my friend. She is also an exchange student. In the midst of the party, a brief episode made me suddenly realize what a miracle it was for people of different nationalities to collect and talk friendly like this. This, for me, is due to the study of Japanese. Also after a long time of learning, my English ability completely doesn't stand a chance against my Japanese ability. Certainly, lacking of effort is also one of the reasons, but on the other hand, what cannot be ignored is that in my English learning experience, I lacked the crucial opportunity to open my mouth to "speak". And this is exactly what matters most in language learning. Language itself, though full of charm, could never shine as it does without conversation or writing. It may be easier said than done, but "talk cheerfully" is how I learn a foreign language. As the time in Wakayama is drawing to a close, I want to seize every opportunity to talk cheerfully with every student who has warmly accepted me here, regardless of their background and experience.

## 轻松地愉快地对话吧

钱琪佳

日本語・日本文化研修留学生 / 中国

不久前我受同为留学生的朋友邀请，参加了一场小型的派对。途中的一个插曲，让我突然意识到，出身于不同国家的人们像这样聚在一起友好交谈，本身是一件多么了不得的奇迹。而这对于我来说，不得不归功于日语的学习。同样是经过了长时间的训练，我的英语能力和日语口语能力却是拍马而不能及的。这固然也有我自身的原因，可另外一方面不可忽视的是，在我的英语学习经历中，缺少了至关重要的“开口说”的机会。而这在语言学习中，恰恰是最关键的。语言本身虽然也充满了魅力，但若是离开了对话或是文字的表达，绝不可能如现在一般光辉闪耀。或许说起来容易做起来难，但“轻松地愉快地对话”就是我的学习方式。留学接近尾声，我想要抓住每次机会，和在这里每一位热情接纳我的同学，轻松地愉快地对话。

# 和歌山で散歩

ババダー セリム

日本語・日本文化研修留学生 トルコ

私はトルコのデニズリという町から和歌山に来た留学生です。コロナによって、教育は世界中で長い間オンラインで行われていました。トルコでは、過去1年半の教育がオンラインで行われて、和歌山でも1年間の授業の半分はオンラインで行われました。

私たちはコロナ対策のために長い間社会環境から離れてきました。人間は社会的な生き物なので、その状況は我々にとって、重苦しいものでした。しかし、やがてコロナウイルスに関する科学的な知識が増え、ウイルスに対する有効なワクチンも作られるようになりました。そのおかげで、対面の授業が受けられるようになり、コロナの対策を取りながら少しずつ交流することができるようになりました。社会的飢餓の後に、こんなに綺麗な町、和歌山に来られたので、ストレスの全部が解消されました。ここで暇な時いつも散歩しています。散歩しながら和歌山を実際に楽しく体験して、一生忘れられない思い出ができました。

和歌山は、深い歴史、色々な観光地、美しい日本建築、清潔で優しい人々が暮らす街です。和歌山の串本地区は、日本とトルコの友好関係の始まりの地だと思われています。トルコは日本からとても遠い国なのに、エルトゥールル号の話やその話の映画まで見た人が大勢いることに驚かされ、感動させられます。散歩する時、和歌山ですれ違ふと小さな声で「ハロー、こんばんは」などと挨拶してくれる人や笑顔で会釈をしてくれる人が多いです。

道を尋ねると、目的地まで送ってくれる人がたくさんいます。一度、バス停の場所を尋ねたとき、バス停までではなく自宅まで送ってくれた人もいました。

現代では、多くの人が暇な時間の大体を携帯電話、パソコンなどテクノロジー・デバイスに向かい一人で過ごしています。インターネットの時代は寂しさを生み出したと思いながらも、こんなに笑顔で挨拶を受けると溜まったストレスもなくなるし、モチベーションも上がります。毎日同じ時間帯に散歩に出る人が多いので、何回もすれ違ふって、お互いに挨拶をし合って仲良くなった人もいます。話しかけて、トルコから来た留学生だと言うと、エルトゥールル号の話やトルコ記念館の話をしてくれた人もいました。散歩することだけで歴史の交流もできているということが意外といい経験になっています。

和歌山の自然も建築様式も特別です。毎日違うところを散歩しようとしています。歩くたびに違う美しさを感じます。和歌山では環境汚染も滅多にありません。地面にゴミを見つけると、ゴミを拾ってリサイクルのために持ち帰る日本人を見かけたとき、この町に対して持っている尊敬心が高まりました。歩いていると、いろいろなところで神社や小さな日本のモニュメントに出会います。日本にはカラスも多いし、カラスの神社もあります。いつも、さまざまな美しい自然や母国と異なる昆虫、様々な日本の建築物に出会います。一人で歩いている時、これらの美しさは私の友達になってくれるのです。私は、木や石でできた建物や寺院、城に歴史の息吹を感じています。コロナの状況下で こんなによく散歩す

るのは大変じゃないかと思う方もいるかもしれませんが、和歌山では皆コロナの対策をちゃんとしているので心配りません。暑い天候のせいか、たまに遠くから歩いて来ている人はマスクをしていないと気づいても、私や他の人が近づくと、マスクをつけてくれるのを見かけることがあります。マスクは自分を守るより相手を守るということになるので、相手のことを考えているそれらの方々を心から尊敬しています。皆がちゃんとコロナの対策を取っているおかげで、安全に散歩しながら、日本の美しさを経験できて幸いです。そして、和歌山で、自分の国に帰ってからも、一生心に残るような思い出が出来て嬉しいです。



## **Walking in Wakayama**

**Selim Babadag**

**Japanese studies student / Turkey**

I am a student from Turkey. The Corona period was a difficult time for the whole world. Everyone had to stay away from social life for quite a while. I have many good memories of Wakayama with its history, natural beauty and kind people. Usually, I take walks in my free time. With that, my admiration for this city grows stronger. Things to discover about Wakayama are endless. For example, Japanese-style buildings, temples and beautiful nature. Also, many people greet you as you walk in Wakayama with kindness. The city is sparkly clean, with no environmental pollution, and people pick up the trash on the street to bring it for recycling when they spot any. I am blessed to have gained good memories and experiences in Wakayama that I will never forget.

## **Wakayama'da yürüyüş**

**Selim Babadag**

**Japon Dili ve Kültürü Araştırma Öğrencisi / Türkiye**

Türkiye'den Japonya'ya eğitim için gelen bir öğrenciyim. Korona dönemi tüm dünya için çok zordu. Ve tüm insanlar uzun bir süre sosyal hayattan uzak kaldı. Normalleşme sürecine geçilmeye başlandığında Türkiye'den Wakayama'ya geldim. Wakayama tarihi, doğal güzellikleriyle ve yardım sever insanlarıyla bende çok güzel anılar bıraktı. Burada boş zamanlarımda sürekli yürüyüşe çıkıyorum. Her yürüyüşe çıktığımda bu şehire daha da hayran oluyorum. Yürürken keşfedilecek güzellikler bitmiyor. Japon tarzı mimari burada çok zengin, yürürken sıklıkla farklı farklı tapınaklara, doğal güzelliklere rastlıyorum. Ayrıca yürüyüş yaparken selam veren bir çok kişi oluyor. Şehir çok temiz, çevre kirliliği neredeyse hiç yok, yerde çöp görünce alıp geri dönüşüme kazandıran insanlar da var. Bir ömür boyu unutmayacağım güzel anılar ve tecrübeler edindiğim için çok mutluyum.

## 和大に留学してよかったこと

メイテュ ミョー アウン

日本語・日本文化研修留学生 ミャンマー

和歌山に来て何と3ヶ月が経ちました。時間が経つのは早くて、3ヶ月があつと言う間に終わった気がします。そうは言っても、振り返ってみると、色々な出会いやたくさんの体験が思い浮かびます。

和歌山に来たのは春休みだったので、最初は留学というよりも、和歌山への旅行みたいな感じでした。優しい地元の人たちは和歌山の色々なところへ連れていってくださって、和歌山ってどういう所かを初めて実際に感じ取った時とも言えます。和歌山は小さい町で交通も大都市ほど便利ではないと言われますが、山も海もあって自然に恵まれている和歌山の美しさを誰もが認めないではいけないだろうと思いました。

観光客みたいに過ごした春休みが一瞬で終わってしまい、本格的な和大での留学生活が始まりました。多国からの留学生たちと友達になって、お互い助け合いながら、和歌山の生活にもだんだん慣れてきました。忙しい分、新しい勉強や色々な日本の文化体験ができて、充実している日々が続きました。その中で、一番の思い出は和歌祭りに参加したことです。



祭りといえば、私の国ミャンマーは仏教徒が比較的によく、宗教に関する行事や色々な伝統的な祭りが一年中行われている国です。子供の頃は祭りの日が近づいてくると、その日が楽しみでわくわくしていたことを覚えています。その時は歴史や伝統文化などのことをあまり理解していませんでしたが、ただ、みんなと一緒に楽しみたかったみたいです。ところが、10代になると、地域の祭りや伝統行事などへの関心がだんだん低下してきました。昔の歌や踊りなどで行われている祭りは現代のものと比べたら、つまらなく感じてきたのです。だから、ほとんど参加しないようになって、自国の、または、地元の伝統文化や祭りには全く関心を持たなくなりました。

ですが、和歌祭りに参加して、伝統文化の大切さを心の中で感じられるようになりまし



た。「和歌祭り」とは昔から毎年行われている和歌山の伝統的な祭りです。その祭りに毎年、和大的留学生たちも参加しているのです。今年の和歌祭りは400年目でした。私たち留学生は『唐人』の衣装を着用して参加することになりました。唐人の衣装とは昔和歌山に来た外国人たちが和歌祭りで着た衣装を復元して作られたものです。その点から、昔も外国人たちが和歌祭りに参加していたことが分かります。

私たち留学生は祭りの日の一週間ぐらい前、和歌祭りの歴史や元々の記録などが展示されている紀州経済史文化史研究所へ見学に行きました。100年以上前から書かれた記録の本、祭りで使用された旗、新聞雑誌まで集められているのを見て、とても驚きました。また、昔和歌祭りで使われた歌や踊りなども昔のまま現代でも使用されているみたいです。自国での祭りなどにあまり関心がなかった私はそれに対して、素晴らしいなと思った一方で、ただ一年に一回行われる祭りのことをそこまで大事に研究する必要があるのかという疑問も湧いてきました。でも、それは非常に大事であるということが祭りの当日に分りました。

当日は祭りに参加するため、集合場所に着くと、多種の昔の衣装を着ている人々、踊りや歌を歌っている人たちがいて、まるで古代に戻った感じがしました。同時に昔の和歌山の人たちはみんなそのように祭りを楽しんできたのだらうと思いました。私は外国人で、和歌祭りの登場人物、踊り、歌などのことはあまりわからなかったですが、その場にいるみんなとは同じ仲間のように感じられました。それぞれ違う年齢、職業、地位の人たちもこの祭りでは一緒に楽しむ同じ仲間として統一感を感じているのだらうと思います。普段なら自分の生活のことで周りのことを気にしなくなり自己中心になりがちな現代人たちに統一感を感じさせ、自分が生きている社会の歴史のことを振り替えさせるのは伝統的な祭りだからこそだと納得できました。

和大的に留学して、和歌祭りに参加したように、日本文化を体験するチャンスが多くありました。日本文化以外にも『多言語サロン』という多国から来た留学生たちが自国の文化や母語を紹介する学習イベントが実地されています。それによって各国の異なる歴史背景をもとに、異文化や価値観に理解を深め、また、前はあまり関心がなかった自国の歴史や伝統文化のことも大事に考えるようになりました。私がそのように自分と社会との関連性、また、伝統文化や習慣などに関する心の受け取り方が変わってきたのは、和大的に留学して色々な体験をしたからです。



# Good Experiences as An Exchange Student At Wakayama University

May Thu Myo Aung  
Japanese Studies Student / Myanmar

The three months of after I arrived in Wakayama were filled with many experiences. When I arrived, it was spring break, so I was able to explore some places of Wakayama. After university started, I had the chance to experience a great deal of Japanese culture with my international friends. My most memorable experience was attending the Waka Matsuri (a traditional festival) in Wakayama. I realized that traditional festivals and cultures have a profound impact on our society from this experience. I also learned about different perspectives and thoughts by sharing the cultures of different countries with my international friends. It has become more important to me to learn about the culture and history of my country.

## ဝါကယမတက္ကသိုလ်မှအတွေ့အကြုံကောင်းတစ်ခု

မေသူမျိုးအောင်  
ဂျပန်ဘာသာဂျပန်ယဉ်ကျေးမှုအထူးပြုကျောင်းသူ / မြန်မာ

wakayamaကိုရောက်ပြီး ၃လအချိန်အတွင်းမှာတွေ့အကြုံ အဖြစ်အပျက်အမျိုးမျိုးကြုံတွေ့ခဲ့ရပါတယ်။ wakayamaကိုရောက်တဲ့အချိန်ကနွေဦးကျောင်းပိတ်ရက်ဖြစ်တာကြောင့်wakayamaရဲ့နေရာတွေအနှံ့ကိုလည်ပတ်ခဲ့ပါတယ်။ပိတ်ရက်ကုန်ဆုံးပြီးကျောင်းဖွင့်တဲ့အခါမှာ နိုင်ငံပေါင်းစုံကကျောင်းသားတွေတဲ့အတူဂျပန်နိုင်ငံရဲ့ယဉ်ကျေးမှုများနဲ့ပတ်သက်ပြီး အတွေ့အကြုံများစွာရရှိခဲ့ပါတယ်။ ထိုအထဲမှ wakayamaမြို့ရဲ့ပွဲတော်တစ်ခုဖြစ်တဲ့ Wakaပွဲတော်မှာ ဆင်နွဲ့ခဲ့တာဟာ အမှတ်တရအဖြစ်ဆုံးအတွေ့အကြုံဖြစ်ပါတယ်။ ထိုအတွေ့အကြုံမှတစ်ဆင့် ရိုးရာဓလေ့ပွဲတော်၊ယဉ်ကျေးမှုတွေဟာ လူမှုအဖွဲ့အစည်းမှာ အလွန်အရေးပါတယ်ဆိုတာကို သတိပြုမိလာခဲ့ပါတယ်။အဲဒီအပြင် နိုင်ငံတကာကျောင်းသားများနှင့်အတူ မိမိနိုင်ငံရဲ့ယဉ်ကျေးမှုနှင့်ပတ်သက်ပြီး အပြန်အလှန်မျှဝေကြရင်း မတူညီတဲ့အမြင်၊တွေးခေါ်ပုံများကိုသိရှိနားလည်လာခဲ့ပါတယ်။ မိမိနိုင်ငံရဲ့သမိုင်းနှင့်ယဉ်ကျေးမှုကိုပိုပြီးလေးလေးနက်နက်သဘောထားမိလာပါတယ်။ဒါဟာ wakayamaတက္ကသိုလ်မှာတက်ရောက်ပြီးတဲ့နောက်မှနားလည်လာတဲ့အရာများဖြစ်ပါတယ်။



## 『平家物語』との縁

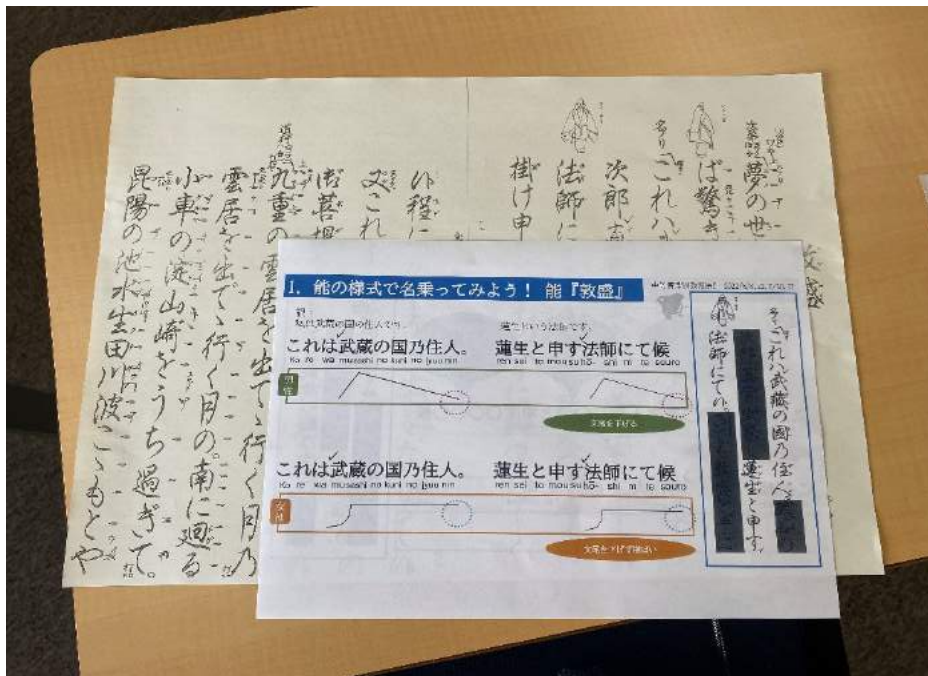
キン アンキ  
教育学部 交換留学生 中国

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり、娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理を顕す。」私はこの一句を朗読するたびに世の変転の衰れを感じる。この言葉の魅力は、古今に亘って語り継がれている。私もこの言葉に惹かれ、『平家物語』と縁を結んだ。

初めて『平家物語』に触れたのは自分の国で同名のアニメを見た時だった。『平家物語』アニメは、アニメに特有な誇張された画面表現を使っているが、古典文学の耽美と伝統的な感覚は保たれている。このアニメのおかげで、私は『平家物語』と言う古典文学作品に出会った。

和歌山大学に来てから、授業で何度も『平家物語』に触れた。例えば、松下先生の「日本文化入門」の授業で原作の一部を朗読し、さらに長友先生の「日本語中級C」の授業で『敦盛』という「能の謡」を体験した。すごく幸運だと思う。これらの体験を通し、私は『平家物語』への認識を深めた。私はこの作品に、より興味を持つようになった。

原作を朗読した時、私はビデオの手本を模倣し、深い調子で朗読するように努力した。やはり口で言う朗読は見るだけの黙読とは違う。「諸行無常」の意味がより深く感じられる。また、私は人物の会話の読み方を工夫したが、アナウンサーのように人物の台詞を完璧に再現するのはうまくいかなかった。それでもいい勉強になった。



もう一つのイベントは『敦盛』という「能の謡」を体験したことが、専門的な歌い方のため、より難しいと思った。「能」は日本の伝統的な芸術の一種である。私は初めて「能の謡」を聞いた。驚いたことに、先生はマイクなどの設備を使わず、地声のまま大きな声で歌った。お腹の力を使い、色々なテクニックを使っていたようだ。先生は、『敦盛』を演

じた時、リズム感が強かった。まるでその光景が目の前に現れたような気がした。私たちは能の様式で自分の名前を名乗ってみた。すごく面白く、みんなで楽しんだ。

『平家物語』は、最初、琵琶法師たちが世間に歌って語ったそう。琵琶法師たちは最初の一句によって、冒頭からこの物語の悲劇性を伝えていた。「祇園精舎」以下の部分で平清盛が紹介されるが、彼は王朝に逆らった反逆者のように位置付けられている。そして、この部分は平清盛をはじめとする平家一門の穏やかではない生涯を暗示している。

これに対応し、『平家物語』はより少ない紙幅で平家の栄えを表現している。その一方で、ほとんどの紙幅では平家の衰えの流れを描写している。あれほど強大だった家門が、わずかな間に消えてしまったとは、嘆かざるを得ない。確かに平家は勢力が強く、勝手気ままに一般人を圧迫していたが、一族には有能で善良な人もいた。そして、私は自分の感情をこの作品に持ち込んだ時、家族が衰えるばかりで、一族の人が消えていくのを見ると、悲しくて仕方がなかった。例えば、原作の「敦盛」の人物会話を朗読した時、私は敦盛の死を悲嘆しつつも敦盛の自分の信念への執着に感服した。熊谷直実は武家に生まれたから、自分の手で自分の息子と同じぐらいの歳の少年を殺さなければならなかった。これはなんと悲しいことだろう。

しかし、私はまた『平家物語』アニメのオープニングの歌詞を思い出した。「何回だって言うよ、世界は美しいよ、君がそれを諦めないからだよ。」たとえ運命は最初から決められているとしても、今私たちはこの世界に生きている。たとえ諸行無常であっても、一つの生命がこの世界に存在した時、その美しさはすでにそこに咲いたといえる。その美しさはこの世界に残っている。これがこの作品の一つの意味なのかもしれない。

時間は一代また一代と移ってゆく。英雄か凡人かに関わらず、過去の人、誰もが自分の印を残した。その印は現代に到達し、未来に通じる。私達が残した印も必ず未来に通じると思う。

参考文献：

呉起燻 『『平家物語』 の研究』 . Diss. 東北大学, 2001.

## The thread that connects me to *Heike Monogatari*

JIN ANQI

Faculty of Education, Exchange Student / China

I first got to know *Heike Monogatari* because of its namesake anime. At that time, I only knew that *Heike Monogatari* is a Japanese classical literature. After I learned about it, I realized that it was the peak work of the monogatari. When I came to Wakayama University in Japan, I had the honor to come into contact with *Heike Monogatari* for many times in class, and experienced the reading of part of the original work and the performance of "nou" which named *Atsumori*.

"The sound of bells echoes through the monastery at Gion Shoja, telling all who hear it that nothing is permanent." The first sentence of master biwa's verse has hinted at the tragedy of the story. It is sad that the family, once so strong, has died out so quickly in such a short time. and when I get into the emotions of these characters, watching families go from good to bad, and people in the family disappear without being able to do anything about it, I can't help but feel sad. But then I thought of a line in the opening song of the anime, "No matter how many times I say, the world is actually beautiful, because you never give up." Even if the world is changeable, when a life exists in this world, it has blossomed its beauty to the world, and its beauty has been retained in the world. Maybe this is also the connotation of this work.

## 与《平家物语》之缘

金 安琪

教育学部 交换留学生/中国

我与《平家物语》的缘分结于其同名的动漫，那时我只知道《平家物语》是一部日本的古典文学，了解后才得知它是与《源氏物语》地位不相上下的物语的最高峰作品。当我来到日本和歌山大学后，我又有幸多次在课堂上接触到《平家物语》，体验了一部分原著的朗读和名为《敦盛》的“能之乐”的表演。

“祇园精舍钟声响，诉说世事本无常。沙罗双树花失色，盛者必衰如沧桑”，琵琶法师唱段的第一句便已经暗示故事的悲剧性，每每咏出这一句总会油然而产生无尽的沧桑悲凉之感。曾经那么强势壮大的家族，却在短短时间内迅速消亡，令人不禁唏嘘。纵使平家仗势欺人，但家族中也不乏很多正直善良有才之人，而当我带入这些人物的情感，目睹家族由盛转衰，家族中的人一个个消逝却无能为力，便不由得产生悲伤心痛之感。

可我转念又想到了同名动画的片头曲中的一句词，“无论多少次我都会说，这个世界其实很美丽，因为你从不言弃”，纵然世事无常，但当一个生命存在于这个世界时，它已向世间绽放了它的美丽，它的美丽曾留存于世间，也许这也是这部作品的一层内涵吧。时间走过一代又一代，无论是英雄还是凡人，他们都曾留下自己短暂的印记，到达现在，又通向未来。

## 「え？生魚食べられる？」

パーダルカ オリハ  
日本語・日本文化研修留学生 ウクライナ

和歌山に来て3か月が経ちましたが、これまでたくさんの面白い出来事があり、色々と考えさせられました。来日したばかりの頃は、様々なメディア媒体から取材の依頼が殺到しました。そして私がテレビに出た後、多くの人から会って話したいと連絡をもらいました。おそらく私はウクライナ人で、私の国は現在辛い歴史を通してがんばっているからかもしれませんし、あるいは私がただ幸運なだけかもしれませんが、いい人に会えるのはラッキーです。

3ヶ月前に買った名刺入れはもう余裕がなくなりました。このことは、新しい人との出会いがとても成功していることを表しているようで、とても嬉しいです。私の新しい知人の輪には、学生だけでなく、ジャーナリスト、市役所の代表者、慈善団体の方、書道の先生、さらには警察官もいます。さまざまな年齢、さまざまな職業、さまざまな興味を持つ人々ですが、話してみると皆さん、3つの共通点があるような気がします。1つ目は、日本人であること、2つ目は、皆とても親切です。そして3つ目の点については、実際の出来事をもとに説明します。

ある日、書道の先生に書道教室に誘っていただいたことがあります。子供から大人まで一緒に書道のスキルを磨くレッスンです。先生が生徒さんに私を教室へ連れて行ってくださるように頼みました。素敵な女性と娘さんが二人で迎えに来てくれました。二人とはその時に初めて会いましたが、教室までは少し遠かったので、たくさん話しました。そして、教室に着いたのはレッスンの1時間前だったので、お茶を飲みながら話をしたり、たくさん質問をしたりしました。先生は「ウクライナの気候はどうか？」と聞いて、迎えに来てくれた女性は、まるで彼女がすでに何か秘密を知っているかのように微笑みました。また、先生が「日本語を学ぶきっかけは何でしたか？」と聞いたとき、その女性は「え？」と声を出してびっくりしました。続けて先生が「日本料理はどうか？もう食べましたか？」と言うと、その女性は「ええ？！先生、マジで全く同じ質問を聞きました！」と言いました。



その瞬間、私は教室に来るときにその女性と話していたすべての会話を頭の中で思い出しました。すべての会話が先生との会話と同じような内容や流れであるような気がしました。でも、私が気づいた最も興味深いことは、私の答えに対する日本人の反応です。



私は「日本料理はよく食べます。特にお寿司が大好きです。」と答えました。すると、先生と女性が驚きながら「え？生魚食べられる？！」と声をそろえて叫びました。私はその反応を見て、料理についての質問をした人は皆、同じような驚きの反応をすると感じました。3つ目の共通点は、このような驚きの反応です。なぜ日本人は私が生魚を食べられると知ったときにいつもとても驚くのでしょうか？おそらく次のような理由があると思います。



人間が驚くのは何かが想像と違う時ではないでしょうか。日本人は外国人が生魚を食べられないというイメージを持っているのかもしれませんが。

ですから、「私は生魚をよく食べる」と異なる答えをしたときに、驚きのきっかけになったのではないのでしょうか。私は人が持っているイメージが変わる瞬間を見るのが好きです。私の答えによって日本人が驚いた反応をすると、その人の持っている外国人のイメージを変えることができたと感じて嬉しいです。

考えてみると、入学前の私もただ漠然と日本のイメージを持っているだけでした。本で読んだり、テレビで見たりしときのイメージは実際と異なる場合が多いでしょう。日本語を学び始めた頃は、日本人は恥ずかしがり屋で内向的な性格というイメージがありました。2019年に初めて来日した時、そのイメージが変わってしまいました。到着したばかりの関西空港駅で電車の切符の買い方に困っていると、近くの人が親切に声をかけてくれて、切符を買うのを助けてくれました。また、一人で観光名所を訪れたとき、列に並んでいる時に話しかけてくれたり、何回も写真を撮ってもらったりと、たくさんの人に助けられました。この経験によって私の日本人へのイメージはがらりと変わりました。日本人は社



交的でとても優しい性格なのだ気づいたとき、私は驚きとともにうれしさと感動を感じました。このような感覚は、おそらく書道の先生や生徒さんたちも感じたのかもしれませんが。

人との出会いや日々の生活によって新しいものの見方を持つことは、自分の価値観に影響を与え、パーソナリティの成長につながると思います。これまでの数年をふり返ってみると、日本や日本文化のおかげで私のパーソナリティは成長したと感じています。そして、今は和歌山で出会った多くの人々や様々な経験から影響を受けて少しずつ「いい私」に向かっています。ですから、これまでの人生で出会った人々にありがとうと伝えたいです。人との出会いが一番大事なことです。これからも人との“縁”を大切にしていきたいです。

## **"Eh? Can you eat raw fish?"**

**Padalka Olha**

**Japanese studies student / Ukraine**

I have been in Japan for three months now, and I have been lucky enough to make many acquaintances. My new acquaintances are very different people: from calligraphy teachers to police officers. However, they have at least three things in common: they are Japanese, they are very kind, and they are always surprised that I love sushi. But why are they so surprised? They probably have an idea that foreigners don't eat raw fish.

When I first started learning Japanese, I had a certain image about Japanese people that they are shy and a little introverted. However, when I visited Japan for the first time in 2019, I was convinced of the opposite. Japanese people always sincerely helped me buy a ticket or took pictures when I was traveling alone. And they also freely started a conversation with me. It changed my mind and I realized how open and friendly they are, which was a really pleasant surprise. Probably the Japanese, while changing their opinion about foreigners, are surprised the same way.

Studying the Japanese language and culture had a great impact on my development as a person, as well as on my worldview. But the main merit and gratitude in this goes to the people who meet on my life's path. Thanks to them, I am on my way to becoming a better version of myself and will continue to value relations with people as my greatest asset.

## **"Що? Ти можеш їсти сиру рибу?"**

**Падалка Ольга**

**Студентка японських студій / Україна**

Я в Японії вже три місяці, і мені пощастило завести багато знайомств. Мої нові знайомі – це дуже різні люди: від викладачів каліграфії до поліцейських. Однак їх об'єднує як мінімум три речі: вони японці, вони дуже добрі, а також вони завжди дивуються, що я дуже люблю їсти суши. Але чому вони настільки дивуються? Напевно у них уявлення, що іноземці не їдять сиру рибу.

Коли я тільки почала вивчати японську, у мене було певне уявлення про японців, що вони сором'язливі і трохи замкнуті в собі. Однак, коли я вперше відвідала Японію у 2019 році, я переконалася в протилежному. Японці завжди щиро допомагали мені купити квиток чи фотографували, коли я подорожувала одна. А також вони вільно заводили розмову зі мною. Це змінило мою думку і я зрозуміла, які вони відкриті та дружні, що приємно здивувало. Напевно японці, які змінюють думку про іноземців, дивуються цьому з такою ж силою.

Вивчення японської мови і культури дуже вплинуло на розвиток мене як особистості, а також на мій світогляд. Та головна заслуга і вдячність в цьому людям, які зустрічаються на моєму життєвому шляху. Завдяки їм я прямую до кращої версії себе і буду й надалі мати дружні зв'язки із людьми як найбільшу цінність.

## 温かい和歌山

タヌシ アベセカラ  
日本語・日本文化研修留学生 スリランカ

これを読んでいる皆さん、人生で大切にしていた夢を叶えた日を思えていますか。私自身の7年間の夢を叶えた日は、3月10日でした。

初めての海外旅行で日本へ入国でき、その日の緊張感は今までの人生の中で一生忘れられない気持ちでした。それどころか、7年間ワクワクしていた日本の夢を、やっと叶えたなんて今でも夢みたいです。スリランカから留学生として日本へ来た私は、最初に成田へ到着し、その後6日間を通してやっと和歌山へ移動することができました。4ヵ月ぐらいずっとオンラインで見ていた和歌山の様子が、実際に目の前で現れた瞬間は言葉で説明できないくらいの幸せな気持ちでした。そこから始まった和歌山の生活を、私は一分ごとに楽しい時間を過ごしています。

私は和歌山に来てからもう3ヵ月ぐらい立ちました。和歌山は意外と静かで、山々しい景色が毎日の疲れを解消してくれる街だと思います。その間、和歌山に住んでいる様々な人と出会うことができ、たくさんお世話になっています。そこで、一番感動したことは、和歌山人って割と特別な考え方を持つ人がいらっしやることです。それは和歌山人の心の温かさとも言えますが、私にとってそれは和歌山の特徴だと思います。

最近出会ったレオンくんのオーナーさんも心が広い特別な人です。当日は、友達と一緒に買い物を終えてから私たちの家であるソレル丸橋へ帰る道でした。ちょうどその時間で、遠くから見えて来た真っ白の可愛いレオンくんが現れました。めちゃくちゃ可愛かったレオンくんと写真を撮りたかった私は、「こんにちは！すごく可愛いですね。よかったですら写真撮ってもいいですか。」とレオンくんのオーナーさんに声を掛けました。彼女は「うん、いいよ。たくさん撮って。」と優しい声で言いました。その時、彼女と初めて会ったのですが、以前から知っていた人みたいに親しく話し掛けました。偶然だったのですが、私たちは2時間ぐらいいろんなことを話し続けました。

その話の中で一番感動したことは、彼女が人に対して持っている気持ちです。話の中では最初から最後まで温かい言葉ばかりでした。初めて会ったのに、こんなに優しく話してくれたことは、私にとって素晴らしい人との出会いでした。彼女はお別れの時、「皆のように素晴らしい留学生たちと

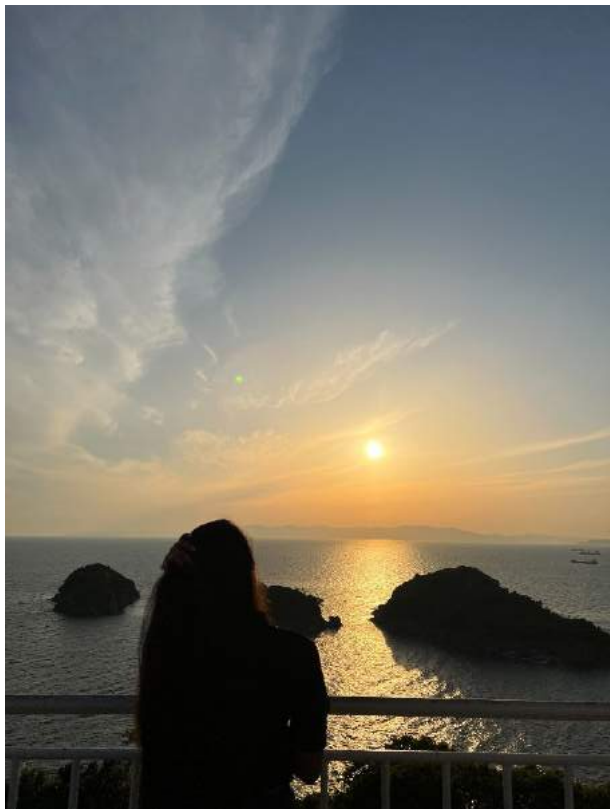


出会ってすごく嬉しいわ！」と言ってくれました。何と温かい言葉でしょう。彼女との会話はそれで終わりましたが、アパートまで私たちの話題は彼女の温かい言葉でした。その後、何回も彼女と可愛いレオンくんと会って仲良くなりました。

誰かが「和歌山の一番気になる所はどこですか」と聞いたら、私にとって一番行きたいところは家の近くにある小道です。理由は色々ですが、一番思いつくのはリラックスできることです。和歌山に来てから何回も通ったこの道は、いつも元気が出る道だと思います。静かで、心が落ち着くような雰囲気は、知らず知らずのうちにその道で歩くのを夢中にさせてくれます。また、鳥の鳴き声と静かに流れている川の音が、和歌山の生活をだんだん楽しいものにしてくれます。たくさんの思い出があるこの道は、レオンくと優しい彼女に出会った道です。ところで、夕方になると、散歩しているお祖母さんお祖父さん達も、可愛いワンちゃん達の影響で笑顔になり、この道がもっときれいなものになっています。

この道の思い出の中で、次も和歌山の温かさを表わす思い出だと思います。ある日、バイトが終わってからそのまま大学のイベントに参加して家に戻りました。とても忙しかった金曜日でした。「さあ、疲れたので美味しいものを作ろう」と冷蔵庫を開けたら、冷蔵庫は空っぽでした。仕方がないので、いつもの小道を歩いて買い物に行きました。行く途中で家族に電話するつもりで、お姉さんに電話をしました。しかし、何回も何回も電話してもお姉さんは電話に出ませんでした。大学の授業が忙しくて、数日の間家族と話せなかったのでもうどうしてもしる日は話したかったのですが、できませんでした。「たぶんお姉さんは仕事で忙しくなったのかな。」って考え、寂しい気持ちを抑えながら歩きました。そうすると、急に自転車の音がし、少し気を付けながら歩きました。突然、「こんにちわ！」と

後ろから声が聞こえました。一緒に住んでいる友達かと思い、そのまま立ち止まりましたが、可愛い小学生が現れました。自転車で私の横を通り過ぎながら優しい声で挨拶をしてくれたのです。家族と話せなかったので、ずっと心配していた私の顔は思わず微笑んでしまいました。私にとってそれはただ一つの挨拶ではなく、その時の心配を解消することができた言葉でした。知らないのに、しかも外国人であっても、気軽に声をかけてくれたその子は、私が和歌山で出会ったもう一人の特別な人です。ある人にとってその出会いはとても日常的な出会いになるかもしれません。しかし、私はそう思いません。私にとってそれは和歌山の温かさを表す特別な出会いだと思います。





# HEART WARMING WAKAYAMA CITY

**Thanushi Abeysekera**  
**Japanese Studies Student / Sri Lanka**

Do you remember the day you read this and realized a dream that was considered important in your life? After 7 years success my dream on 10th of March. I was able to enter Japan on my first foreign trip and it was one of the most memorable days of my life. Arriving in Japan as a Japanese language student from Sri Lanka, I first came to Narita and then arrived in Wakayama six days later. Having only attended the lectures online for about four months, I was delighted when I saw the city of Wakayama for the first time. I was so happy. Every minute of living in Wakayama is amazing. I enjoy the beauty and the beauty of the environment. One day I met a beauty and camly lady live in Wakayama. I haven't meet her before, but her kindness speak wonder me and we are being a friend. Another day when I was walking on the lane, alittle boy was ridenig a bicyle. He said "Have a nice Day" courtesly and ride fast. The day was a bit busy, so I tired, and it was refreshing even if it was limited to one word. I seem to me that, this as the warmth in the hearts of the people who live in this Wakayama.

## හදවන උණුසුම් කරන වකයම

තනුෂි අබේසේකර  
ජපන් භාශාව සහ සංස්කෘත අධ්‍යයන ශිෂ්‍යයා / ශ්‍රී ලංකාව

මෙය කියවන ඔබගේ ජීවිතයේ වැදගත් කොට සැලකූ භීතියක් සැබෑ කරගත් දවස මතකද? මගේ ජීවිතයේ සත් වසරක සිහිනය සැබෑ වූ දිනය මාර්තු 10 වැනිදාය. මා හට පළමු විදේශ සංචාරයේදී ජපානයට ඇතුළු වීමට හැකි වූ අතර, එය මාගේ ජීවිතයේ අමතක නොවන දවසක් විය. ශ්‍රී ලංකාවෙන් ජපන් භාශාව හදාරන ශිෂ්‍යයෙකු ලෙස ජපානයට පැමිණීම මම මුලින්ම නරිත වෙත පැමිණි අතර, අනතුරුව දින හයකට පසු වකයම වෙත ලගාවූවාය. මාස හතරක පමණ කාලයක දේශන සඳහා අන්තර්ජාලයෙන් පමණක් සහභාගී වූ නිසා වකයම නගරය සැබෑවින්ම මා ඉදිරියේ පෙනී සිටි මොහොත, වචනයෙන් විස්තර කළ නොහැකි තරම් සතුටක් මා තුළ ඇති විය. වකයම නගරය සොභාවසෞන්දර්යයෙන් පිරි නිස්කලංක නගරයකි. එවැනි වූ වකයමහි ගෙවෙන ජීවිතය විනාඩියක් පාසා විනෝදයෙන් ගත කරමි. එක්තරා දිනයක වකයමහි ජීවත් වන සුන්දර කාන්තාවක් හමුවිය. මින්පෙර හමුනොවුනාවූනත්, ඉතාමත් ප්‍රියමනාපව කතාබහ කලාය. ඇයගේ කතාබහෙහි තිබෙන උණුසුම්බාවය හරිම පුදුම සහගතය. එය වකයමහි ගෙවෙන ජීවිතයට තව තවත් ආශ්වාදයක් ගෙන ආවාය. තවත් දිනෙයක කුඩා පිරිමි ලමයෙකු හමුවිය. නිවස අසල පිහිටි මා ප්‍රිය කරන කුඩා මාවතක් තිබේ. එම මාවතේ ගමන් කරන විට, බයිසකලයක නැගගත් කුඩා පිරිමි ලමයෙකු "සුභ දවසක්" යැයි ආචාර කරමින් වේගයෙන් දිව ගියාය. එදා දිනයේ තරමක් කාඨිසබහුල වූ නිසා විඩාවට පත් වූ මාහට, එය එක් වචනයකට සීමා වූවත්, ප්‍රබෝධයක් ගෙනදෙන්නක් විය. මා දකින්නේ මෙය වකයමහි ජීවත් වන මිනිසුන්ගේ සිත් වල තිබෙන උණුසුම්බාවයයි.

## 自分の中に存在する和歌山

グエン ティ ホン タム

日本語・日本文化研修留学生 ベトナム

和歌山に来て約6ヶ月間経った。他の留学生と同じように、家族から離れて一人暮らしの生活も心配したが、和歌山には思いがけず驚かされた。なぜかというと、和歌山は賑やかではなく、たくさんの自然に囲まれたところだからである。生い茂った木々からこぼれる木漏れ日が寂しい気持ちを暖かくしてくれる。一言で表せない静かで平穏な空間に否応なしに引き込まれてしまうのである。

和歌山大学に入学した頃、最も困ったことは通学路にあった。なぜなら、自分の国では片道30分ほどかかる長い道を歩いたことが一度もなかったからだ。肌が焼けそうになるほど暑い日や、体が突き飛ばされそうに感じるほど強い風が吹いた日、あるいは大雨の中を自転車で駆け抜けた日も当然ある。しかし、疲れてもつまらなくても、長い道を歩き続けて学校に辿り着くとなぜだか幸せな気持ちに満たされる。そして、時が経つにつれて、その馴染んだ通学路がいつからか自分の“友人”になっていった。

その道では、「おはようございます」についての貴重な学びもできた。簡単な挨拶だが、なんとなく不思議なように感じた。通学路では、大学の門に厳しい顔をした警備員のおじさんがいつも立っていた。最初の日には、その厳しい顔を見ると怖いので黙って通り過ぎ、2日目と3日目もそんなことを繰り返した。しかし4日目、そのおじさんに「おはようございます」と言うことにした。すると、そのおじさんがやさしい顔で「おはようございます」と返事をしてくれて嬉しかった。それ以来、毎日、お互いに笑顔で挨拶した。「おはようございます」という9文字の簡単な言葉は、他人に話しかけるための勇気を出させ、日本人についての見方を変えさせ、日本人は誰もが冷いのではないということを教えてくれた。さらに、おじさんは親しい友達になり、この“友達”の「おはようございます」という挨拶は、夏の疲れや、暑さなどを吹き飛ばして気持ちを穏やかにしてくれる魔法の言葉のような気がする。本当に簡単な言葉だが、全然知り合いでなかった二人をつなぐ見えない糸になった。それは不思議ではないだろうか。

つい先日、和歌山大学の先生に「日本に来てから、思っていたことと違ったことは何ですか？」と聞かれた時、「ベトナムでは、日本人はかなり冷たいというイメージなのですが、ここに来た時から、そうでもないと感じます。」とすぐに答えた。先生はやさしく微笑みながら、「タムちゃん、そのことは間違っていないですよ。東京とか、大阪などの中心都市に住んでいる人たちは生活が忙しすぎて、だんだん冷たくなったような気がします。」と言った。和歌山で安らぎの日々が過ごせて幸せを感じていたが、和歌山がいつか更に賑やかになるとしたら、この静かで居心地のいい雰囲気もうなくなるかもしれない。もし、和歌山の人々の生活リズムがいつも忙しかったら、すれ違った時に挨拶する時間も、狭い道をお互いに譲り合うこともなくなると思う。そういう理由で、やさしく謙虚に生きている人々のいる、現在の平穏で温かい和歌山を大切にするようにしてほしい。

和歌山では、日本人だけでなく、様々な国からの友達に会うチャンスがあり、一緒に楽しい時間を過ごした。また、優しくて熱心な先生はもとより、WIN コンコードをはじめとして、留学生支援の組織にもお世話になっており、まるで自分の“親戚”と一緒に住んでいるように感じられた。6ヶ月間はそう長い時間ではないが、お互いにとって良い思い出が十分に残ったであろうと思う。

私は日常生活の些細なことからも和歌山が好きになった。この和歌山の大自然と友達や“親戚”のことは良い思い出になっており、帰国しても一生忘れられないことだ。そして、留学した時の貴重な体験を聞かれたら、「和歌山らしい人情である」と絶対に答える。



## **Wakayama in my heart**

**Nguyen Thi Hong Tham**  
**Japanese Studies Student / Vietnam**

6 months I have lived in Wakayama where is a quiet place and located in the Western of Japan. Wakayama is surrounded by majestic mountains, blue sky, breeze blowing through each leaf creating a cool, fresh atmosphere. The nature here gives me an indescribable feeling of peaceful place. Moreover, I also gain many valuable lessons about "morning greeting" from this place. I have opportunities to meet teachers and many people at volunteer organizations who have always encouraged and taken care of me. Wakayama is my second home. Six months it's not a long time, but it is enough for us to keep good memories of each other. I love Wakayama from the smallest things and from daily life. Wakayama is a land of nature, with the taste of the sea, flowers, and fruit. In future, even if I return to my hometown, I will never forget the beautiful scenery and my acquaintances here. If someone asks me that what I learned from studying abroad, I will not hesitate to answer immediately that the most valuable thing is the humanity of Wakayama.

## **Wakayama trong tôi**

**Nguyễn Thị Hồng Thảo**  
**Nghiên cứu sinh tiếng Nhật / Việt Nam**

Vậy là 6 tháng cũng đã trôi qua kể từ ngày tôi đặt chân đến Wakayama – một vùng quê không ồn ào, náo nhiệt vùng phía Tây Nhật Bản. Wakayama được bao bọc bởi những ngọn núi hùng vĩ, bầu trời trong xanh, những làn gió nhẹ thổi qua từng kẽ lá tạo nên một bầu không khí mát mẻ, trong lành. Thiên nhiên nơi đây mang lại cho tôi một cảm giác yên bình khó tả. Cũng chính tại nơi này, tôi đã học được một bài học quý giá. Đó là bài học về câu “chào buổi sáng”. Tôi được gặp những người thầy, người cô và nhiều người ở tổ chức tình nguyện luôn hết lòng chăm sóc, động viên tôi. Ở Wakayama, tôi có cảm giác như đang sống cùng với “người thân” của mình. Sáu tháng trôi qua, tuy không phải là thời gian dài, nhưng cũng đủ để mọi người lưu lại những kỉ niệm đẹp về nhau. Tôi yêu Wakayama từ những điều bé nhỏ nhất vẫn diễn ra hằng ngày. Wakayama là mảnh đất của tự nhiên, có hương vị của biển, có hoa và cây trái. Sau này, dù có trở về quê hương, tôi cũng sẽ không bao giờ quên cảnh đẹp và những người thân của tôi ở nơi đây. Nếu sau này có ai hỏi tôi, sau khi đi du học tôi nhận được gì, tôi sẽ không ngại trả lời ngay rằng, điều quý giá nhất mà tôi nhận được là tình người ở Wakayama.

## 千の間違った言葉

ゴンサルベス サントス ギレルメ  
日本語・日本文化研修留学生 ブラジル

西暦 13 世紀に藤原為氏は、玉津島について、「人とはば 見ずとやいはむ たまつ島 かすむ入江の 春のあけぼの」という歌を詠みました。その詩は「もし誰かが訊いてきたら、私は玉津島の春の日の出に霞んだ入江を見てないと答える」という意味です。僕はコリンズ先生の授業で初めてこの詩を勉強したときの気持ちを今でも思い出せます。先生がすぐある矛盾を示しました。詩人の答えは「見てない」ですが、もし本当に見ていないなら、どうやって春の日の出の時間の入江のかすみについてこんなに詳しく言えますか。本当は見たことがあります、言葉がああきれいな景色を映し出せないと思うので、見てないと答えた方がいいのだと先生が説明しました。藤原家の詩人のこと理解できないと感じました。真実を隠すつもりがあるのに、どうして本当は行ったことが明らかにわかる内容を歌を詠んだのでしょうか。

それについて長く考えました。授業の後で部屋に戻り、パソコンをつけ、新しい学期が始まる 2～3 週間前ごろに撮った写真を見ました。その写真は玉津島の写真ではありませんでしたが、近いところ、片男波海岸の写真でした。そのころは、まだ和歌山市に着いたばかりなので、ここに何がありあそこに何があると、自分ではまだあまり分かりませんでした。片男波には「万葉館」があると聞いたので、大変興味を持ちました。その日はもう閉館していました。夕日の時間ですから、仕方がないと思いました。僕は、その日に万葉館からの和歌の知識を得られませんでした。かわりにその夕日の風景から和歌についての教を貰いました。その時はまだ分かりませんでした。スマホで撮った写真はその証拠です。

あの木曜日、授業から帰った後も、先生の説明が僕の頭に残りました。表面的な言葉は矛盾しているように見えても、言葉の背後の意味は「言葉でどんな説明をしてもそれが足りない」ということなので、その詩には矛盾がないと先生が言いました。作品が何百年も残っている詩人の言葉を使う能力は非常にとびぬけているはずでしょう？ しかしその人でも説明できないと思ったのなら、確かに考えさせられます。言葉では表せないなら、何で表すことができるのでしょうか。



西暦 21 世紀に生きている者として、早速頭に浮かぶ答えは写真です。「画像は千の言葉と同じ価値がある」という英語のことわざも、その考え方を表しています。そのように千の言葉と写真が同じ価値なら、確かに現代に生きている人達は誰もが手に持っているスマートフォンでいくつかの千の言葉を一瞬で写真に替えることができますね。僕は部屋に帰った時に、パソコンをつけたら、デスクトップの画像がちょうどその片男波海岸の夕日の写真で、それを見たら、写真に何かの違和感を感じました。しかし、なぜ違和感を感じたのかということに気付くまでには後数週間待たなければなりませんでした。

その機会は、急に友達が「蛍を見に行こうか？」と誘ってくれた時でした。町の親切な人が車で連れて行ってくださり、「江川中蛍鑑賞地」という所まで行きました。夜の森に低く飛んでいる小さい蛍たちは非常に美しかったです。どうやって撮ってみてもスマートフォンの画面に映った蛍は僕が見た蛍と同じではありませんでした。そう言ったら、その場所で活動しているボランティアの人が機械のレンズより、必ず目で見て心の中に蛍の記憶を保存してくださいと言いました。記憶は他の人に見せられないと反論したかったですが、そのことを言うより、片男波海岸の写真を思い出しました。

今でもその写真は本当にきれいだと思いますが、実際に見た景色よりきれいではありません。同じぐらいきれいでもありません。つまり、この写真は千の言葉と同じ価値があっても、実際の景色を表せないのだから、その千の言葉は最後の言葉まで全部間違った言葉のはずだと思いました。その瞬間に藤原為氏の本当の気持ちに触れたと感じました。人間の表現能力は限界があります。人間が作るものも同じように人の限界に制限されています。藤原為氏の生きていた鎌倉時代から今の令和時代まで人の命で測れないぐらいの長い時間が経ちましたが、いまでも本当の美は人の手が届かないところにあることに納得します。

だが、もし詩人と同じようにあの景色の美しさについて訊かれたら、そのとき僕は「見ずとやいはむ」と言いたくなくても、見に行くしかないと言います。一生大切に好き好き「千の言葉」を持っていますが、実際見ていない人に対してこの写真は千の間違った言葉に他なりません。

## **A Thousand Wrong Words**

**Goncalves Santos, Guilherme**  
**Japanese Studies Student / Brazil**

When I first arrived in Wakayama, I still didn't know how to go from here to there, but had the opportunity to be taken to Kataonami Beach, which the Man'yōkan is close to. Unfortunately, that day the museum was already closed, but despite not being able to enter, still I got an unmeasurable lesson in Japanese poetry when seeing the sunset there. Something I would only understand some time later. After that the university classes started and at Professor Collins' class we saw Fujiwara no Tameuji's poem "If anyone asks, I'll say I didn't see it, Tamatsushima, wreathed in haze at the dawn of spring". The apparent paradox between the negative and the very detailed description left me thinking. If even a poet of Fujiwara's caliber found words to be insufficient, what would be? As someone living in the 21<sup>st</sup> century, I thought photos! After all, an image is worth a thousand words, they say. But upon visiting Ekawanaka to see the fireflies, despite all my efforts to take a picture of them, you just couldn't see anything on the cellphone's screen, so someone said "look and save it in your heart". The picture I took of Kataonami's sunset, as the fireflies, just wasn't the same thing. If a picture is worth a thousand words, then those words were, like Fujiwara feared, a thousand wrong words.

## **Mil Palavras Erradas**

**Guilherme Gonçalves Santos**  
**Estudante de Estudos Japoneses / Brasil**

Quando eu cheguei em Wakayama ainda não sabia o caminho para cá e para lá, mas tive a sorte de que me levassem à praia de Kataonami, onde há por perto o Man'yōkan. Infelizmente o expediente já havia acabado, mas apesar de não conseguir entrar no museu, ainda assim tive uma lição inestimável sobre poesia japonesa ao ver o pôr do sol lá. Algo que só compreenderia algum tempo depois. Ao começar o período letivo, estudei na aula do professor Collins um poema de Fujiwara no Tameuji que diz "Caso me perguntem, direi jamais ter visto Tamatsushima e sua aurora de primavera envolta em neblina". O aparente paradoxo entre a negativa do poeta e a detalhada descrição deixou-me pensativo. Se até um poeta cujo talento o levou a sobreviver séculos acreditava que palavras não bastariam, o que bastaria? Como alguém vivendo no século XXI, pensei em fotos. Afinal, uma imagem vale mais que mil palavras, dizem. Mas ao visitar o campo de Ekawanaka para ver vagalumes, por mais que tentasse fotografá-los, não apareciam bem no celular, então me disseram "veja bem e grave no coração". A foto que tirei do sol poente em Kataonami, igualmente, não era a mesma coisa. Se uma imagem vale mil palavras, aquelas eram, como Fujiwara temia, mil palavras erradas.



## 「また来てね」

エシュプラトフ フェルズ

日本語・日本文化研修留学生 ウズベキスタン

「また来てくださいね！」この言葉は、どこでも、誰でも、耳にしたことのある言葉だと思います。ウズベク語で「客は自分のお父さんと同じくらい大事」ということわざがあります。ウズベキスタンの国民はお客様を非常に大切にし、お客様が家を訪ねて来たときは、できるだけ感動させてあげたいと願っています。おいしい料理をつくってあげたり、自分の家の一番いい部屋に泊まってもらったりします。つまりウズベキ人はおもてなしの心をとっても大切に国民だと言えます。



子供のころを思い出すと、私たちの家にもよく父の友達や親戚が訪れて来てくれました。父の友達たちは夜遅くまでお酒を飲んだり、騒いだりしていました。母はどんなに遅くなり眠くても、お客様に料理を作ったりしていました。遅い時間でもきれいに後片づけまでしていました。こんな状態が数日も続いていました。しかしいつも母は優しい顔でその大切なお客様に、「また来てくださいね」と言っていたことをよく覚えています。いつも母の疲れている様子を見ていた私は、実はもうお客様は来ないでほしいと思ったこともありましたが、母はどんな時でも、「また来てね」と言って見送っていました。その時の母の気持ちを大人になってよく分かるようになりました。つまり「また来てね」という言葉は「また来てほしい時」にも、「もう来ないでほしい時」にも使い、お客様によって意味が違ってくるのが分かってきました。

大学に入学してから日本語を学び始め、留学することを夢にしてきました。日本に来るために独学で日本語を勉強し続け、ようやく今年日本に留学できました。今年の5月12日、世界でも有名な東京の成田空港に来ました。初めての留学でいろいろな問題がありました。しかし空港のスタッフの方が優しく詳しく説明してくれたおかげで、無事にホテルに着くことができました。10日間の隔離が終了してから和歌山方面行きの電車に乗りました。はじめて見る日本の美しい自然に気を取られていたせいか、電車に慣れていなかったせいか、降りる駅を超えて次の駅に降りてしまいました。その瞬間、慌てた私の目に最初に入った70歳ぐらいのおばあちゃんに声をかけて駅の確認をしました。そのおばあちゃんは急いでいるにも関わらず、駅員を呼んで状況を説明してくれました。そして、乗るべき電車が来るまで駅員さんと一緒に待って乗せてくれました。和歌山に着くと大学の国際科の方々が迎えに来てくれていました。国際科の方々や先生方も初めてお会いしたにも関わらず、寮に入るために必要な手続きから、生活に必要な物をもってきてくれることまで



もやってくれました。次の日から大学に行き、授業に参加し始めました。そこでとても明るくてみんな仲がいい学生さんたちと出会いました。私の専攻のプロフェッショナルな優しい先生方の授業にも興味をもって参加しています。

日本に来て約1か月が経ちました。時間はまるで、小さい川でありながら急速に流れる水のように思います。この短い時間で和歌山のきれいな自然や観光地を観光することができました。留学もあと3か月です。留学終了後は帰国します。今私は母の優しい顔を思い出しました。責任感を持った空港のスタッフさん、電車のドアが閉まるまで待って笑顔で軽く手を振ってくれたおばあちゃんと駅員さん、自分の国の話に興味をもって聞いてくれた仲間たち、懸け橋になって頑張ってくれている国際科の方々、面白い授業をやってくれている先生方は、みんな「また来てね」と言ってくれるだろうか。帰る日、動き始めた飛行機の窓から見える、みんなにお辞儀をしてくれる空港のおじいちゃんは、「また来てね」と言ってくれるだろうか。「是非また来てほしい」という意味で、「また来てね」を言ってくれるかな。



## **Come on!**

**Eshpulatov Feruz Abdunabi Ugli**  
**Japanese Studies Student / Uzbekistan**

Come on! Everyone must have heard that word. The Uzbek people are so hospitable that even an Uzbek family that has no bread to eat at home tries to put everything in front of the guest when he arrives. When I was a kid, there were a lot of guests coming to our house, and every time they left, my family would tell the guests to come again, so of course I didn't pay attention to that word then. As I grew older and paid attention to this word, I realized that it is said to everyone, but sometimes willingly and sometimes reluctantly. Here I am now in Japan. Each of our senses is helping us to the best of their ability. It's been over a month since I arrived. In this short time I saw the beautiful nature and travel destinations of Wakayama. I will return to Uzbekistan in 3 months. And now I'm thinking a lot about something. When I leave, they tell me to come again, and the most important thing is what it means to come again.

## **Yana keling!**

**Eshpulatov Feruz Abdunabi o'g'li**  
**Yapon tili va madaniyati ilmiy izlanuvchi talaba / O'zbekiston**

Yana keling! Bu so'zni hamma eshitgan bo'lsa kerak. O'zbek xalqi shunchalik mehmondo'st xalqki, uyida yeyishga noni bo'lmagan o'zbek oilasi ham, mehmon kelganda uning oldiga borini qo'yishga harakat qiladi. Bolaligimda uymizga juda ham ko'p mehmon kelardi va doim ular ketayotganida oilamizdagilar mehmonlarga yana keling deb aytishardi, tabiiyki o'shanda bu so'zga e'tibor qilmasdim. Ulg'ayib bu so'zga e'tibor qilganimda, bu so'- hammaga aytilishini, lekin ba'zida xohlab, ba'zida esa xohlamsdan aytilishini tushundim. Mana men ham hozir Yaponiyadaman. Har bir senseimiz o'z yordamlarini ayamay qo'llaridan kelguncha bizga yordam beryaptilar. Kelganimga bir oydan oshdi. Bu qisqa muddat ichida Wakayamaning go'zal tabiati va sayohat joylarini ko'rdim. Yana 3 oydan keyin o'qish muddati tugab O'zbekistonga qaytaman. Hozir esa bir narsa haqida ko'p o'ylayapman. Men ketayotganimda menga ham yana keling deyisharmikan va eng muhimi shuki, bu yana keling qaysi ma'noda aytilarkan.

2011年3月11日

バトウルジー オユンダリ  
経済学部3年 モンゴル

私は物心がつく前から祖父母の家で育ちました。当時私が9歳だった2009年頃、仙台に留学していた両親に初めて会うために日本へ来ました。そして、その三日後には地元の小学校に入学しました。クラスメートが私のためにいろいろ手伝ってくれましたが、最初は感謝の気持ちを日本語でつたえることができませんでした。初日の給食を一人で食べ始めたら皆が驚いて「いただきます、を言ってから食べるんだよ。」と身振り手振りで何とか教えてくれました。でも、だんだん日本語も上手になり、友達もできて学校生活になれてきました。本当にいい仲間に出会っていたんだと今でも感謝しています。最初は国語の授業になると校長先生の部屋に行ってひらがなを覚えてもらっていました。1年半後にはクラスメートと漢字のクイズに参加し、たまに優勝したりしていました。



しかし、一緒に暮らし始めて一年半もたっているのに両親にはなかなかなじみませんでした。祖父母に会いたいと言って泣いたり、反発ばかりしていました。「あの日」まで私はパパとママの私への愛情にまったく気づいていませんでした。

2011年3月11日、私は学校が終わってから友達の家でいつものように遊んでいました。すると急にものすごいゆれを感じました。そうです、東日本大震災が起こったのです。あの怖さは忘れることができません。交通機関が全部止まってしまったので両親は三時間も歩いて私を迎えに来てくれました。母が私をだきしめてくれたとき、私は初めて両親の私への愛情を理解しました。

地震でガスや電気などが止まっていましたが、翌日にはスーパーの店員さんがみんなちゃんと仕事をしていたり、近所の人達が自分達で作ったおにぎりを無料で他の人々に配ったりしていました。こんな状態なのに、みんな協力しながら頑張っていたことに感動しました。私はこの時、日本、日本人、日本の文化などが全部大好きになり、「将来ぜったい日本に留学したい」と願うようになりました。

2011年3月11日、だれにとっても忘れられない特別な日に私は二つの大切なことを知りました。私は祖父母と同じように、両親を愛するようになりました。そして将来の目標を見つけました。



## **March 11, 2011**

**Bat-Ulzii Oyundari**  
**Faculty of Economics / Mongolia**

I grew up at my grandparents' house before I can remember. In 2009, when I was 9 years old, I came to Japan to meet my parents who were studying abroad in Sendai for the first time. However, even though I had been living with them for a year and a half, I could not become their parents. On March 11, 2011, I was playing at my friend's house after school as usual. Suddenly, I felt a tremendous shaking. Yes, the Great East Japan Earthquake happened. My parents walked for three hours to pick me up because all transportation was stopped. When my mother hugged me, I understood for the first time the love my parents had for me. Gas and electricity had been cut off by the earthquake, but the next day, all the supermarket clerks were working properly, and the neighbors were giving away free rice balls they had made themselves to other people. I was impressed by the way everyone was cooperating and working hard despite such a situation. At that time, I fell in love with Japan, Japanese people, and Japanese culture. On March 11, 2011, a special day that no one will ever forget I learned two important things. I came to love my parents as if they were my grandparents. And I found my goal for the future.

## **2011оны 3 сарын 11**

**Бат-Өлзий Оюундарь**  
**Эдийн засаг / Монгол улс**

Өвөө эмээ дээрээ өссөн би 9 настайгаасаа Японд сурж байсан аав ээжтэйгээ амьдрарч эхэлсэн. Дөнгөж Японд ирээд шууд сургуульд орсон би хэцүү байсан ч цаг хугацаа өнгөрхийн хэрээр дасаж эхэлсэн. Гэхдээ аав ээжтэйгээ донтонсож чадаагүй байлаа. Орой болгон өвөө эмээгээ санж үйлна, аав ээждээ ч муухай аашлана. 2011 онд том газар хөдлөлт болход аав ээж маань над дээр гүйн ирж авсныг мартдаггүй юм. Тэр үеийн нөхцөл байдал хэцүү байсан ч хэсэг Япон эгч нар онигири хийгээд хүмүүсд тарааж байсан. Хүнсий дэлгүүрийн худалдагч нар ч ажилдаа ирээд ажиллаж байсан. Энэ бүхэн намайг улам Японд дуртай болгосон. Аав ээжтэйгээ ч донтонсож эхэлсэн.

## 愛に満ちた和歌山

レ ミン トゥー  
教育学部 交換留学生 ベトナム

「日本に来ると、人生で出会ったことのない新しい驚きに出会えるよ!」と日本に来る前に先輩が教えてくれました。日本のような面白いものがたくさんある新しい環境に慣れるためには、以前住んでいた環境から脱出しなければいけません。新しい環境に適応するのに苦労している人も、新しい場所での生活にはとても興奮するでしょう。私も日本に来てから、とても興奮しています。そして、和歌山での生活にとっても満足しています。

ベトナムにいた時は、日本人の服の色の影響で、日本での生活の雰囲気はベトナムより少し暗い雰囲気を感じるとよく聞きました。ベトナムの街を彩るカラフルなコスチュームに比べて、日本の街は、やや暗くて悲しい色をしているのは事実です。しかし、ここでの生活が暗いと言うことは、必ずしも真実ではありません。日本での生活には独自の色があります。そして、和歌山ではいつも愛が私の周りに溢れていると感じています。

和歌山に来た初日は、かなり特別な印象を持ちました。他の留学生と同じように、母国で2年以上日本語を学んでいましたが、日本の生活に慣れることは少し大変でした。日本に到着した時、ベトナム人は待機期間がありませんでした。そのため、入国後すぐに和歌山に来ることができました。和歌山大学のガイダンスでもらった案内図から行き方を見つけましたが、その時電車に乗った経験がなかったのでバスに乗って行くことにしました。バス停は簡単に見つけることができました。しかし、ベトナムには自動切符購入機のバスがないので、乗車前にその場で切符を買わなくてはならないことに驚きました。そのため、ベトナムのバスと同じように、バスで現金で切符を買いました。空港のスタッフに案内されて切符を買ったので、日本で初めて恥ずかしい思いをしました。しかし、空港スタッフの親切なサポートのおかげで、チケットの購入方法を学ぶことが出来ました。日本で丁寧なサポートを受けたときはとても嬉しかったです。そして、行き方は分かりづらかったですが、和歌山の人々は親切に行き先を案内してくれました。それが日本人への第一印象でした。温かいおもてなしと日本人の熱心なサポートはいつも私の心を幸せにします。私は、和歌山での生活にとっても興奮しています。

初めて和歌山に来た時は、ベトナムでの生活と比べて生活が一変したように感じました。電車の乗り方、バスの乗り方、日本人の暮らし方を学び始めなければなりません。しかし、幸いなことに、留学生の友人だけでなく、些細なことでも私を導いてくれるとても親切な日本人の友人にも出会うことができました。ある日、初めて電車に乗った時、電車に乗り間違えました。約束した友達を長い間待たせてしまいました。友達は急行電車の乗り方を教えてくれました。みんなの私への愛情がいつも和歌山県での生活を温かさで満たしてくれます。

和歌山に一ヶ月以上住んで、和歌山大学の友達がたくさんできました。その友達との出会いは、バスで偶然に会ったり、大学の食堂で会ったり、調査やイベントに参加したりした時でした。今でも、毎日 SNS を通じて、出会った友達と連絡しています。ある日、大学で友達と出会った時に、友達が最初に言った言葉が、「トゥーちゃん、大好き!」でした。



このことが、とても印象に残って、これをきっかけにもっと親しくなりました。みんなに愛されていると感じました。とても嬉しかったです。他の人とも一緒に食事をしている時、最初に言ってくれたのは「トゥーちゃん、大好き!」という言葉でした。情熱的な愛の広がりにおいて、「大好き」という言葉は挨拶のようなものだと感じました。私と和歌山の人の間に言語の壁はまったくありません。

私は、周りの人からいつも愛され、助けられていると感じています。初めて日本を訪れたので、時々ベトナムに住んでいる家族を思い出して、寂しくて悲しくなる時があります。留学生なので、またベトナムの家に帰れることは分かっています。ベトナムの家は私にとって、常に帰るべき場所で、安心できて、愛されている場所です。父、母、姉がいる我が家はいつも素敵です。それでも、和歌山では、色々な国の友達、和歌山大学で知り合った日本人の友達、そして和歌山の人々など、周りのみんなの愛に満ちています。私にとって、この人たちは私の家族のような存在です。

人々の愛に満ちている場所、和歌山。ここは常に私の愛と尊敬に溢れている場所でもあります。私にとって、和歌山はとても特別な場所です。和歌山は自分らしくいられる場所、たくさんの新しいことを学ぶ場所、そして私が愛している場所です。



## **Wakayama – a place full of love**

**LE MINH THU**

**Faculty of Education, Exchange Student/Vietnam**

The warm welcome and enthusiastic help of the people of Wakayama always bring me enormous happiness, as well as make a deep impression on me. When I first came to Wakayama, it seemed that my life had completely changed compared to life in Vietnam and I had many difficulties to adapt to this new life. Fortunately, I met friendly international friends as well as extremely kind Japanese friends who guided me from the smallest things. After living in Wakayama for a while, I made many friends at Wakayama University. Those friends often greet me with the greeting: “Thu, I love you!”. That statement made me feel loved by everyone. The help, love and spreading love warmly make me feel that life here is warm and full of love.

In Wakayama, my spirit is filled with the love of everyone around me, not only international friends, Japanese friends I know at Wakayama University but also Wakayama people. To me, the love of the people of Wakayama makes me feel at home. A place filled with human love, such a place is always worthy of our love and respect, right?

## **Wakayama – nơi đầy tình yêu thương**

**LÊ MINH THU**

**Khoa Giáo Dục, Sinh Viên Trao Đổi/Việt Nam**

Sự đón tiếp nồng hậu cũng như sự nhiệt tình giúp đỡ của người dân Wakayama luôn để lại niềm hạnh phúc trong tôi, cũng như để lại ấn tượng trong tôi sâu sắc. Thời gian đầu tôi đến Wakayama, dường như cuộc sống của tôi thay đổi hoàn toàn so với cuộc sống ở Việt Nam và tôi đã gặp nhiều khó khăn để thích nghi với cuộc sống mới này. May mắn thay, tôi gặp được những người bạn quốc tế thân thiện cũng như những người bạn Nhật Bản cực kỳ tốt bụng đã chỉ dẫn tôi từ những thứ nhỏ nhặt nhất. Sau một thời gian sống ở Wakayama, tôi đã làm bạn với rất nhiều người ở Trường Đại học Wakayama. Những người bạn đó thường chào tôi với câu nói: “Thu ơi, tôi thích bạn!”. Câu nói đó làm tôi cảm thấy mình được mọi người yêu thương. Sự giúp đỡ, sự yêu thương và lan tỏa niềm yêu thương một cách nồng nhiệt khiến tôi cảm thấy cuộc sống nơi đây thật ấm áp.

Ở Wakayama, tinh thần của tôi được lấp đầy bởi tình yêu thương của mọi người xung quanh, không chỉ những người bạn quốc tế, những người bạn Nhật Bản quen ở trường Wakayama mà còn là người dân Wakayama. Với tôi, sự thương yêu của người dân ở Wakayama làm cho tôi cảm giác như mình đang ở nhà vậy. Một nơi tràn ngập tình thương yêu của con người, một nơi như vậy luôn xứng đáng để ta yêu thương và trân trọng đúng không?



## 和歌山大学—非常に貴重な贈り物

チャン ティー スアン イー  
教育学部 交換留学生 ベトナム

2022年に和歌山大学の交換留学生になったのが私の一期一会の経験です。留学は、私にとって今までの人生のなかで非常に貴重な贈り物なので、その贈り物についてお伝えしたいと思います。

まず初めに、留学は、自分の限界を超えることです。留学経験を通して自分に自信や度胸がつく留学経験は、自分に自信や度胸を与えてくれます。なぜなら、日本が上手に話せなくても、生活で困ったことがあっても自分で対処しなければならないからです。例えば、ATM からカードが出てこなくなってしまうたら、その国の言葉で係の人に状況を伝えて解決するしかありません。このように何事も自分で言い、やりきることによって成功体験が積み重なります。海外で一人で住んでいるというのは積極性と行動力を身に着けるチャンスです。留学では、親元を離れ生活することになります。異文化の中で初めて遭遇することに、戸惑いを覚えることも少なくないかもしれません。しかし、これは自立の一步です。留学中は、自分の身の回りのことはなるべく自分でやる、という姿勢が求められます。はじめは出来ないことばかりで不安にもなりますが、留学中に、できることが増え自信に繋がります。

次に、今まで別の世界で生きてきた人々と日本語で話し、コミュニケーションを取り、知らなかったことを知る感動は、他の何にも代えがたい貴重な体験となるはずですが、例えば、留学では、他の交換留学生と日研究生と一緒にソレル丸橋というマンションで生活します。留学先には日本語を学びに様々な国籍の人が来ているので、現地の言葉や文化だけではなく、他にも多くの国の文化や習慣に触れる機会があります。こんな環境に飛び込めるのは留学の醍醐味であり、自分とは違う背景を持った人達と友達になることで、これまで当たり前だった考えが覆されたり、新しい価値観を発見することができます。

特に、和歌山大学に留学したから、私には、同じ留学生の中国人の金さんという友人がいます。そんなことが一番幸せだと思います。日本語でわからないところがあると教えてくれたり、私の書いた英作文をより良い表現に直してくれたり、よく助けてもらいました。また、お互いの語学力アップのために、私たちは日本語と日本語で説明できない場合に英語で会話しようと二人ルールを決めて話したこともあります。私たちは日常生活の詳細を共有したり、一緒に笑ったり、悲しさがあれば、いつも元気づけあったり、お互いについて学びます。そんなふうにしなみながら学べた気がします。

最後は、家族から離れている時には、家族の愛が一番貴重なものということを感じます。ベトナムでは、どれほどの時間を家族と一緒に過ごしたのか分かりません。時間はあっという間に過ぎてしまいます、その時、もっと家族と過ごすこともできたのかなと今になって思います。でも、時々、家族の支配から解放されたり、家族の支配をなくしたいと思う場合があります。その時、留学の希望はどんどん大きくなります。でも、最初の数週間はいつもホームシックで、母親が作った食事を思い出しましたので、家族をもっと愛し、感

謝することができます。地元を離れた今でも私をサポートしてくれる両親には心からあらためて感謝します。

以上の点で、和歌山大学の交換留学生になるのが私の一期一会経験でした。入学した暁には、和歌山大学が私を選んだ判断は正しかったとさせていただけるよう、一生懸命頑張るだけでなく、できるだけ多くの知識を得たいと思います。



# **WAKAYAMA UNIVERSITY – INVALUABLE PRESENT**

**TRAN THI XUAN Y**

**Faculty of Education, Exchange Student / Vietnam**

In 2022, I am so happy to be an exchange student of Wakayama University. From this time, I can reach many meaningful things. First of all, studying abroad is the time I end up knowing aspects of yourself that until now had not floated, since I have to take the reins and this means that your brain has to make an effort to overcome new challenges such as solve banking issues,.... All these situations make me develop a better capacity to assimilate and understand other cultures different from our own. I end up being very aware of your responsibilities and this makes you grow at all levels. Secondly, I am so lucky when I meet Kin. We always have so much fun talking together, sharing little details about our daily lives here and at home, learning about each other, and laughing together. Plus, my Japanese skills have improved so much. Finally, In Vietnam, the love of family is always existed in each person, but there will be a time when I want to get rid of the control of my family and studying abroad is getting bigger. But after those first weeks, I was always homesick and remember the meals my mom cooking, which can not occurs right now. Thus, when I think about this, I really love that moments. I will try my best to study hard and gain more valuable things while studying abroad at Wakayama University.

## **ĐẠI HỌC WAKAYAMA – MÓN QUÀ VÔ GIÁ**

**TRAN THI XUAN Y**

**Khoa Giáo Dục, Sinh Viên Trao Đổi / Việt Nam**

Trở thành sinh viên trao đổi tại Đại học Wakayama là cơ hội chỉ có một lần trong đời của tôi. Đó là món quà vô cùng quý giá đối với em trong cuộc đời. Điều đầu tiên mà em nhận được đó là vượt qua giới hạn bản thân. Việc du học mang lại cho em sự tự tin và can đảm. Điều này là nhờ em phải đối mặt với bất kỳ vấn đề nào trong cuộc sống trong khi tôi không thể nói tiếng Nhật. Đi du học là một bước tiến tới sự độc lập và em đã luyện tập được thói quen làm việc cá nhân hết mức có thể dù cho ở bất kì hoàn cảnh nào. Tiếp theo mà em nhận được đó là tình bạn. Đã có lúc em nghĩ rằng em sẽ chẳng thể có được một người bạn nước ngoài thân thiết như một cô bạn thân ở nhà. Nhưng rồi, cuộc sống du học đã mang đến cho mình những khoảnh khắc ấy – em đã gặp được người bạn Trung Quốc tên Kin –tình bạn thực sự đã được dệt nên từ những ký ức vui vẻ, đời thường thôi. Cuối cùng là em cảm thấy yêu và biết ơn gia đình hơn. Khi ở Việt Nam, đôi lúc em mong muốn được thoát khỏi sự kiểm soát của gia đình thì khát khao được đi du học càng ngày càng lớn hơn. Nhưng sau những tuần đầu tiên đó luôn là nỗi nhớ nhà, nhớ những bữa ăn mẹ nấu, để từ đó chúng ta yêu và trân trọng gia đình hơn. Từ những điều quý giá trên, em sẽ tự nhủ với bản thân là sẽ cố gắng học để khẳng định rằng đại học Wakayama chọn em là một quyết định đúng đắn.



wakayama  
univ.

国立大学法人  
和歌山大学

**2022 和歌山大学 留学生による第 14 回作文コンクール**

発行日:2022 年 8 月

発行者:和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 TEL:073-457-7524

冊子制作: 松下 恵子(和歌山大学日本学教育研究センター 特任助教)



2022 第14回  
留学生による  
作文  
コンクール



和歌山大学 国際イニシアティブ基幹  
日本学教育研究センター  
Center for Japanology Studies

